

こんな活動やっています



山の恵みを感じるハイキング

おしたてやま
～押立山生産森林組合～

湖東平野の東端に位置する押立山（東近江市下一色町）。押立山生産森林組合はここで313haの森林を所有しています。



「押立山ハイキング」は平成24年度から毎年春・秋に開催し、毎回20人前後の参加があります。参加者の年齢層は未就学児から80歳代までと幅広く、和気あいあいと登山を楽しんでいます。

春は色とりどりの花々、秋は見事な紅葉を楽しめ、標高771.8mの山頂からは、湖東平野を一望できます。また、山の中には「ドケ祭り」で有名な押立神社の本宮跡が祀られ、参加者がお参りしています。

宇曽川の溪流沿いを歩きます。とても気持ちがいいです。



ところで、単なるレクリエーションで終わらないのが押立山ハイキング。森林が持つ水源かん養機能を簡単な実験で体感するコーナーがあり、「山の恵みが分かる」と参加者に大好評です。

これからも、森林と私たちの暮らしとの関係に関心を持ってもらえるような取り組みを続けます。



（押立山生産森林組合 組合長 松野）

次回の押立山ハイキングは平成28年11月20日（日）に開催予定です。興味を持たれた方、まずはお電話を。
電話 090-7493-3406（松野）

この人に注目！！

東近江市 地域おこし協力隊
ひが あやか
比嘉 彩夏さん



ニホンミツバチと共に 森林の再生をめざす

東近江市愛東地区の「地域おこし協力隊」として、今年1月にやってきました。在来種であるニホンミツバチの保護および繁殖を目指し、活動中です。

東近江市に来るまでは、大阪の都会のど真ん中でセイヨウミツバチの養蜂を行っていました。

ミツバチは蜜を集めるだけでなく、花から花へと移る際に植物の受粉を手助けし、私たちの口にする作物ができます。

セイヨウミツバチはひとつの花の蜜に通う習性があるので、「レンゲのはちみつ」「アカシヤのはちみつ」など一種類の花のはちみつができます。

一方、主に里山に生息する在来種のニホンミツバチは、セイヨウミツバチと違って色んな花に通う浮気者なのです。「浮気者」というと聞こえが悪いかもしれませんが、ミツバチが花をめぐって受粉を促す役割は重要で、様々な花に行き交うことで山の植物の受粉率が上がり、更に実りがよくなります。

現在、ニホンミツバチは減少傾向にあります。その原因は複合的ですが、ニホンミツバチを守っていくにはまずは私たちがその存在価値を理解することからだと思います。地域の小学生を対象に、はちみつやミツバチから学ぶ食育活動や環境学習を定期的に行っています。

森のナラやカシなど、どんぐりがたくさん実れば、動物たちにとって食料豊富な豊かな森に変わります。植物の実りに関わるミツバチがいなくなれば、人間は4年で滅びるとい説もあるほどです。

私が、扱うことが難しいと言われるニホンミツバチを選んだ理由は、豊かな森林資源を保全・回復することに寄与したいと思ったからです。

私の活動で、少しでもニホンミツバチに興味をもたれる方がいればいいなと思っています。

（東近江市地域おこし協力隊 比嘉）



水源森林再生対策事業の実施について

東近江市にある永源寺ダムは、近年、ダムに流入し堆積する土砂量が異常に多い状況です。そこで注目されたのがダム上流に位置する茶屋川流域（東近江市茨川町）です。

茶屋川の流域面積（一つの溪流に対して、雨や雪等が流れ込む範囲）は38.7km²であり、永源寺ダムに流れ込む溪流の中では最大面積です。この茶屋川流域内を調査した結果、これまでの台風や豪雨により流域内の山腹（さんぷく）が複数箇所崩壊しており、そこから発生した土砂が溪流に流出していることがわかりました。

滋賀県はこの土砂流出を少しでも軽減するため、今年度から茶屋川流域内の荒廃森林を「水源森林再生対策事業」にて復旧整備していきます。



流域内の山腹が崩壊しています。

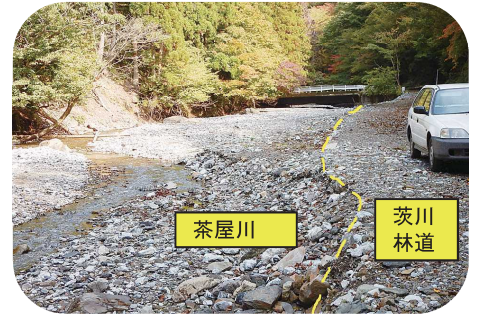
整備方法として、

- ①土砂発生源である山腹崩壊地の早期緑化
- ②下流域へ土砂が流出することを防ぐ床固工（とこがためこう）を溪流内に設置
- ③適正な森林整備による水源かん養機能や土砂流出防備機能の回復

などを計画しており、平成28年度から5年間で重点的に実施していく予定です。

なお、茶屋川流域の一部は鈴鹿国定公園に指定されていますので、自然環境に詳しい専門家の方々からアドバイスを頂きながら、生物環境に配慮した工事を実施します。

当施工地は奥地森林ですが、鈴鹿山系の溪流は愛知川本流を経て琵琶湖へと繋がっていることを意識しながら復旧整備していきたいと思えます。（星野）



溪流内の土砂が林道と同じ高さまで堆砂している箇所もあります。

滋賀生まれ・滋賀そだち

少花粉スギ苗木の出荷が始まります

今や国民病とも言われる花粉症。滋賀県では、花粉症対策として、「油日林木育種場」（甲賀市甲賀町油日）にて花粉が少ないスギの種子を生産しています。この種子から作った林業用の苗木の初出荷が決定しました。

松居農園株式会社（東近江市五個荘小幡町）のビニールハウス内で育てられた滋賀県産少花粉スギのコンテナ苗が、来年の春、四国地方へ出荷されます。



ビニールハウス内で出荷を待つ少花粉スギのコンテナ苗

コンテナ苗は苗の根に土を付けたまま山へ植え付けられます。



「コンテナ苗」は、苗の根のまわりに土を付けたまま出荷され山へ運んで植え付けることができるので、従来の「はだか苗」（土を落として出荷）に比べて扱いやすいなどのメリットがあります。

滋賀県の森林の約40%は、長い時間をかけて人が苗を植えて大切に育ててきた人工林です。その多くが、これから伐採・収穫の時期を迎えていきます。滋賀県では今後、滋賀県産少花粉スギへの植え替えを進めていきます。（北村）